

坪田貞子 (編)

臨床ハンドセラピー Our Hand Therapy Protocol

平地一彦 (市立札幌病院整形外科)

手が病気や怪我によって痛み、動かなくなるとたちまち生活に支障がでます。手には特殊な解剖と緻密な機能が存在するので、手の治療に特化した手外科とリハビリテーションとしてのハンドセラピーがあります。ハンドセラピーとは温熱療法、マッサージ、関節可動域訓練などの物理的刺激を介し、治療に導く治療です。この書はハンドセラピーの基本的な介入方法を臨床現場の実践に即して解説してあります。すでにハンドセラピーを実践している人、またはこれから始めようとする人のために、豊富なイラストを用いてわかりやすく記載してあります。

編集は坪田貞子教授で、作業療法士として43年間の経歴を持ち、日本のハンドセラピストのパイオニアで、北海道におけるハンドセラピーの生みの親として活躍してこられた先生です。ハンドセラピーという言葉が知られていない時期から札幌医科大学附属病院で治療にあたり、手外科の手術を見学し、回診に参加し治療方針を検討するという組織的なハンドセラピーを築いてこられました。札幌医大は石井清一先生をはじめ著名な手外科医を擁し、ここでの豊富な臨床経験や大学教育で培われた実績がこの一冊の本に凝縮されています。

本書は4章で構成され、1章：ハンドセラピーとは、2章：基礎知識。(手の解剖、介入の原則、評価の原則、スプリント療法、物理療法、心理的支持・ケア)、3章：疾患別プロトコル(骨折・脱臼・靱帯損傷、神経損傷、絞扼性神経障害、腱損傷、人工関節、手根不安定症、手指の変形、関節症、腱鞘炎、テニス肘、デュピュイトラン拘縮、フォルクマン拘縮、複合性局所性疼痛症候群、先天異常、熱傷、音

楽家の手の障害)、4章：付録(評価用紙、ホーム・エクササイズ、必要な機器)となっています。各論では「基本戦略」、「ハンドセラピー・プロトコル」、「評価」、「成功させるためのポイント」が述べられ、使えるノウハウが丁寧に説明され、項目ごとにチェックする仕組みとなっています。これは本を読むだけでなく、書き入れて理解を深めて欲しいという意図があります。「まとめと展望」は臨床の疑問、議論すべき問題が述べられ、臨床家はうなずかされることが多いでしょう。

手外科医からハンドセラピーのためのプロトコルが書かれた本が欲しいという要望に答え、この本が誕生したようです。したがって実践に即したプロトコルや装具療法に力点がおかれ、若手医師は臨床ガイドブックとして利用する価値があるでしょう。ハンドセラピーに関した著書は数多くあるものの、臨床に即した実践書はそう多くはありません。ハンドセラピーに従事する作業療法士・理学療法士、手外科医を目指す医師に手にとって本を広げ、いい本だと感じていただき、手に入れて欲しい本だと思います。

ハンドセラピーは病む人の患部に手を当て、いたわる心を込めて自らの手でやさしく触れることであり、いわゆる「てあて」や「Art」で医療の本質と考えられますが、この本は理論的背景を明らかにしてそれは「Science」であることも教えてくれます。この本を読んで、熱い心と冷静な思考で作業療法の可能性を広げましょう。

(B5判 310頁 定価 6,800円+税 文光堂刊 2011)